

(遺伝性角膜変性症患者の疾患マーカー解析)

今回、京都府立医科大学は、遺伝性角膜変性症の疾患マーカーに関する研究を実施いたします。そのため、過去に京都府立医科大学附属病院で緑内障患者の疾患マーカー解析に関する研究で採血を受けられた患者様および正常ボランティアの皆様の調査させていただきたいと考えています。

実施にあたり京都府立医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切な研究であると承認されています。

研究の目的

角膜は、透明な組織であり、光の屈折を利用して網膜にピントの合った像を結ぶ、という重要な働きをしていますが、この角膜に混濁が生じると視力の低下を招き、場合によっては角膜移植が必要になることもあります。これについては、家族性角膜混濁を伴う疾患もいくつか報告されていますが、視力低下の程度や進行速度は一樣ではありません。本研究では、角膜混濁という、生まれながらの体質について、血液から取り出した遺伝子群を調べ、正確な診断法の確立、あるいは病態解明を目指します。採血を繰り返し実施することにより、患者様の苦痛を招く恐れがありますので、本研究では、採取した血液細胞を半永久的に保存しながら、十分な症例数に達するまで細胞の保存と症例の蓄積を実施します。

本研究でも扱うあなたのご病気に関する情報、あるいはあなたの身体に関する情報等、今回ご提供いただいた血液検体から得られたデータは、将来的に計画される別の研究にとっても大変貴重な情報です。もしあなたの同意が頂けるならば、同じ疾患あるいは別の疾患に関わる遺伝子、もしくは薬剤反応に関わる遺伝子の新たな研究のため、今回提供していただいた試料・資料を使用させて頂きたいと考えております。背景、意義などを分かりやすく記載すること

研究の方法

・対象となる方について

2010年9月1日から、京都府立医科大学附属病院眼科で緑内障患者の疾患マーカー解析に関する研究で患者もしくは正常ボランティアとして採血を受けられた方が対象となります。

・研究期間： 医学倫理審査委員会承認後から2024年3月31日

・方法

以前に皆様より採血した血液より、ゲノム DNA、RNA、タンパク質を抽出した遺伝子やタンパク質を使用し、遺伝性角膜変性症をお持ちの方、および（本疾患をお持ちでない）健常者間でデータの比較検討を行い、ゲノム構造に基づいた遺伝性角膜変性症疾患マーカーの同定を行います

・研究に用いる試料・情報について

試料：遺伝子・蛋白質

・個人情報の取り扱いについて

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。

研究組織

研究責任者

京都府立医科大学 眼科学教室 教授 外園 千恵

お問い合わせ先

患者さんのご希望があれば参加して下さった方々の個人情報の保護や、研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画及び実施方法についての資料を入手又は閲覧することができますので、希望される場合はお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2024年3月31日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

この研究についてのお問い合わせは、平日の午前9時～午後5時に担当科である眼科にて受け付けております。

電話番号：075-251-5578

担当者：眼科学教室 学内講師 上野 盛夫